



西尾寿博議員

景気低迷に何ができるか

融資制度の大幅拡充等に備える

問 100年に1度の大不況。すでに大手企業が減産、解雇、工場閉鎖等、次々踏み切っている。国も企業を救う対応を迫られている。

大山町は企業誘致に積極的に取り組んできたが、町内企業も業績を維持することが相当難しい状況である。

- (1)世界全体で広がる、不況の連鎖の現状と今後をどのように思うか。
 (2)大山町企業連絡協議会は、どのようなことをしているのか。
 (3)誘致企業、町内事業所の困窮時に、町の施策として出来ることはないか。
 (4)町民に町内企業の概況、製品の紹介等、近況を知らせてはどうか。

答 (山口町長)

(1)町内の事業所や誘致も、自助努力や国の緊急経済

対策により、踏ん張っているが、長期化すれば、本町の住民生活にも多大な悪影響をもたらす。
 (2)13社で組織し、年1〜2回、課題・問題点や地域貢献等について研修会を開催している。

(3)当面の施策として、国の緊急経済対策で打ち出された融資制度の大幅拡充に備え、11月1日から担当課を1名増員、商工会にも相談窓口を設けていただく等の対策を講じて地元中小事業者の支援に努めている。



造成工事中の所子工業団地

また、新たな企業誘致対策として、所子工業団地の早期完成を図る。
 (4)3チャンネルを活用した企業紹介番組の作成を検討している。

元気な農業基盤どうつくるか

大山町ブランドの確立をめざす

問 三笠フーズによる汚染米の販売事件等、あらゆる食料が偽装、偽ブランドの対象になっている。
 (1)生産地、ブランドについて町長の認識は。
 (2)国も農地借用の原則自由化を打ち出した。本町でもチャレンジプラン等に、積極的に取り組んでいるが、変化する農政の中、元気で足腰の強い農

業基盤をどう作り上げるか。
 (3)他の市町村にさきがけ、「安全・安心な食料産地宣言」を打ち出し、いち早く全国にアピールできないか。

答 (山口町長)
 (1)産地形成やブランドの確立には相当の熱意や時間、また、権威や物語があることが必要だと考える。

今年度中には大山町ブランドの認証基準を示し、更に厳しい基準をクリアしたトップブランドのものも検討したい。
 (2)大山町耕作放棄地対策協議会の設立を進め、来年度以降の耕作放棄地解消に向けた取り組みを検討したい。
 (3)出来るだけ早く宣言できよう検討していく。



大山の恵みを運びます